

令和4年度 学校自己評価報告書

I 今年度の重点目標の取組

考察等	○「互いを尊重し、認め合う心」、「自ら進んで学ぼうとする態度」、「豊かな知力と健やかな身体」、「社会貢献の意欲」「駒中 principle」は昨年度に引き続き、肯定的評価が多い。また、「感染症対策」についても、3年目ということもあり、肯定的な評価が多くなった。
改善策	○現状維持ではなく、少しでも上を目指すため、それぞれの項目において教員一人一人が「自信をもって取り組んでいる」と思える具体的な実践を進めていく。特に、「駒中 principle」に関わる取組については様々な場面で生かせるよう教員の意識を上げていく。

II 地域とともに子供を育てる教育

考察等	○便りやホームページでの情報発信、保護者対応や保護者との連携など、保護者との関わりについては例年のように肯定的な評価が多い。教員も意識して取り組んでいる。学校支援地域本部を立ち上げて3年目となり、各種検定、校内の緑化活動は軌道に乗った。
改善策	○令和5年度は、各種検定、校内の緑化活動の取組を、さらに学校支援地域本部の取組として組織し、今後一層活性化させていきたい。人材バンクのようなものを作成することにより、活動が持続できる体制を作っていく。

III 未来を担う子どもを育てる教育

1 教育課程・教育目標

考察等	○教育課程に関することや学籍事務についての肯定的評価は高くなった。ただし、「ひていてきな評価」の教員もあり、教育課程自体に対する日頃の理解度を高める必要がある。
改善策	○計画の組織的な進行について、教務主任を中心に業務の進行管理をさらに丁寧に行い、分掌主任との連携を一層図る。教育課程の意識・理解を高めるため、管理職や教務部から適切な情報を提供していく。

2 学習指導

考察等	○学習内容の基礎基本の定着への取組、授業計画の取組、言語活動、評価・評定など授業改善全般に関する取組については肯定的評価が多い。 ○ICT機器（特にタブレット端末）の活用は定着してきたが、教材教具に関する整備については例年のとおり課題と感じている。 ○図書館活用については、その効果を理解しつつも実践に関して課題を感じている。
改善策	○「学び方」を身につけさせる指導を工夫したり、生徒に学習習慣を身につけさせたりするため、教師にとっては「授業実施スタイルの基準」、生徒にとっては「学習スタイルの基準」となる「授業スタンダード」を作成したので、それを定着させていく。 ○教科「日本語」については、改めて研修等を通してそのねらいや指導法について確認し、効果的に取組が実践できるようにする。 ○図書室活用については、感染症対策を行う中での制限がある。その制限の中で、どのように取り組むかを考え、活用できるようにする。

3 道徳・特別活動・総合的な学習の時間の授業

考察等	○道徳・特別活動・総合的な学習の時間の授業の指導における計画的な取組については一定の評価が得られている。より、ねらいを明確にした具体的な指導を進めることが求められる。 ○道徳的心情や判断力、実践力については課題としている教員もいる。日々の学校生活の様子から判断しているものと思われる。
改善策	○教科としての道徳の取組については確実に進められている。指導がすぐに日々の実践力に結びつくものではないが、総合的な学習の時間や特別活動における、体験的・実践的な取組(構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング)と合わせて一層の充実を図る。

4 生活指導

考察等	○「保護者対応」や「スクールカウンセラーの活用」については高い評価である。昨年以上に生徒が落ち着いており、実態に応じた評価となっている。 ○「時間を守って生活するよう指導している」の評価は高いが、少し、ルーズになっている。
改善策	○学校生活のきまりについては、組織的な対応をすることをさらに心がけ、「生活指導スタンダード」について、具体的な理解を一層進められる取組を行う。

5 学校行事

考察等	○今年度は、感染症対策を施し多少制限はあったものの、以前の形に戻りつつある。その中でも工夫して行事を行ってきたことが評価にも表れている。
改善策	○今後も感染対策を踏まえた工夫・改善について考えていかなければならない。また、学校行事は常に精選と改善を図るとともに組織的な取組が求められる。新しい意見、考えを積極的に取り入れていく体制を作る。

6 健康体力・特色ある教育・世田谷9年教育

考察等	○今年度も引き続きコロナ禍であったが、体力向上や健康教育に関する取組に対しては肯定的評価が高い。体育科や養護教諭、運動部の顧問を中心に感染対策を施しながら生徒たちの健康や体力の維持向上にかかる取組を積極的に取り組んでいる。 ○小中連携については、一部取り組んだが見送られたものも多かった。
改善策	○今年度は、どうすればコロナ禍以前に戻せるかを考え、感染対策を踏まえた上で、体力向上・小中連携などに関する取組をさらに進めていく。

7 キャリア教育・進路指導

考察等	○キャリア教育については、学年ごとにねらいに応じた指導を進めている。キャリアパスポートの作成・活用は定着してきた。また、キャリア教育通信の発行も行った。
改善策	○進学指導にとどまらず、経験的体験的な、幅広く生き方指導としてのキャリア教育を進めていく。

8 特別支援教育・教育相談

考察等	○特別支援教育コーディネーターと教育相談主任を中心に取組を進めている。合理的配慮、ユニバーサルデザインについての理解は定着しつつある。カウンセラー活用も含め一層の推進が求められる。
改善策	○特別支援教室（すまいるルーム）と通常級の教員同士の連携や教育相談部会の一層の充実を図り、「不登校対策」「カウンセリング」などの特別支援教育と教育相談の取組を一層進める。 ○合理的配慮、ユニバーサルデザインについても、教育相談部会や研修をとおして理解をもっと深めていく。

9 NIE・ESD

考察等	○NIE（新聞による教育）については、「読む」ことから「書く」ことに取り組み、教員の意識も高まっている、一層様々な教育活動に生かしていくことが課題である。 ○ユネスコスクールの取組についても、意味や趣旨についての理解が不十分な教員がいるが、ESDの取組が各学年で進められており、一定の効果が得られている。
改善策	○NIEについては、さらに「話す」ことへとレベルアップを図り、一層の定着を図れるよう取組を進める。 ○ユネスコスクールの取組については、教員の中での理解を一層進めるとともに、日々の教育活動のひとつひとつと関連付けることができることを確認していく。

9 部活動

考察等	○感染症対策を行いつつ以前の活動に戻りつつある。 ○組織的な運営について否定的意見があるのは、部活動の教員の負担に偏りがみられることであるが、担当している教員自体は意欲をもって指導にあたっている。
改善策	○休養日の設定を含めガイドラインについて再度確認をし、生徒と教員の負担軽減を図るとともに、外部指導員の活用も進め、一層の指導の充実を図る。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくり

1 学校運営・学校経営・学校評価

考察等	○自分自身の学校運営・学校経営の参画意識の肯定的評価は高いが、適切に分掌の取組が進められていることに関しては否定的評価がみられる。 ○ＩＣＴについても、苦手意識をもっている教員も含め意欲的に取り組んでいる。 ○学校評価については例年どおり肯定的評価が高い。
改善策	○組織的運営については、組織的運営を見直すとともに、担当主任等一部の教員の問題としてとらえるのではなく、教員一人一人の問題として捉え、学校運営・経営意識の向上について改善を図る。

2 教職員・研修

考察等	○働き方改革について、組織的なものも含めて、その取組や個人としての意識改革について課題意識がみられる。
改善策	○働き方改革については、組織として具体的な取組が求められる。月１回、定時退勤日を設けるなど、業務改善を一層進める。 ○服務規律に関しては、より実践的な研修を行うことにより個人の自覚をさらに高めていく。

3 保健管理・安全管理

考察等	○アレルギー、熱中症、感染症などの対応・研修をはじめ、保健管理については養護教諭を中心に計画的に進められている。また、安全管理についても、避難訓練など防災に関する取組における評価が高い。
改善策	○安全に関する取組は、より実践的な練習が大切である。肯定的評価は多いが、実践的な部分では不安を感じている面もあるので、より実践的な取組を進めていく。

V 教育環境の整備（施設設備、出納・経理、文書・情報管理）

考察等	○教育環境については決して整っているわけではないが、今ある環境の中で、環境の維持・改善、有効活用を進めている。より一層、整備についての意識を高めていく必要がある。 ○昨年度同様、出納・経理などの予算管理や文書管理については肯定的評価が多い。
改善策	○施設にしても文書管理にしてもＩＣＴ機器にかかる課題が多い。世田谷区はシステム管理されているので、システムの能力を最大限に生かす取組を一層進める。 ○出納・経理については、事務職員を中心に一層組織的に進める。